

## 知事広聴「平太さんと語ろう」 記録

【開催日時】平成 25 年 10 月 29 日（火）

13 時 30 分～15 時 30 分

【会 場】東伊豆町役場 1 階 大会議室

### 1 出席者

- ・ 発言者 東伊豆町、河津町において様々な分野で活躍されている方  
6 名（男性 3 名、女性 3 名）
- ・ 傍聴者 105 人

### 2 発言意見

	項 目	頁
発言者 1	北川温泉での取組と今後の展望	3
2	河津七滝地区の観光業と広報 賀茂地域の防災	7
3	河津町が持つ地域資源の情報発信活動 東京オリンピックを活かした県全体の魅力づくり	10
4	稲取漁港の現状報告と今後の展望	12
5	子育て支援に関する活動報告と県への要望	17
6	トラベルヘルパーの紹介	19
6	伊豆の観光におけるトラベルヘルパーの意義	27
4	避難タワー機能をもった漁協施設の整備	28
傍聴者 1	教育に対する要望	29
2	細野高原と風力発電	29
3	江戸城築城石における文化の継承	30
4	原発等における正しい情報の発信	31

<県知事挨拶>

皆様、こんにちは。きょうはこの広聴会に東伊豆町長様、また河津町長様、また町議の先生方もお越しいただきまして、本当にありがとうございます。この広聴会というのは、こちらが意見を言うのではなくて、皆様方の御意見を承る、広く聴く、広報に対して広聴という機会でございます。今回は東伊豆のリーダーの方々、河津のリーダーの方々をお招きをして御意見を聞き、そしてこちらでできることは、その場できょう来ているこの人たちが意思決定するんですよ。彼らが聴いて、私も聴いて、そして何ができる、できないかというのは即判断してやるということで。そういうわけで責任を持った形でお聴きをして、そして皆様の声が地域の発展になるように結びつけるという機会でございます。

一方、この広聴会というのは、1期目のときに25回やったんですが、今回2期目に入りましてこれで3回目になります。35市町、全県下回って、回り終わっておりますけれども、一方で今移動知事室の真っ最中なんです。知事室というのは静岡市の東館5階にあるんですが、お越しになった方いらっしゃいますか。ドアはどうなっていました？開けっ放しでございます。来る者は拒まずということで、できる限りの助力を惜しまない、見返りを求めないということでやってきたんですが、なかなか敷居が高いということで、私の方から出かけるというふうにすることが多くなりまして、最初の4年間で1,200回以上あちらこちらを回っていたんですけれども、さすがにこの賀茂地域となりますと、例えば南伊豆まで行きますれば、なかなか時間がかかります。

あるいは北の方も大井川の北の方、井川だとか、あるいは天竜川の北の方、水窪というところに行きますと、大変に往復の時間だけでとられるということがはっきりしておりますので、昨年からは知事室を何も東館の5階のそこに置いておくということではなかろうとということで、知事室を移動させるということで、今の知事室はどこにあるかといいますと、下田の賀茂地域政策局長の机が僕の知事机になっているんですよ、きのう、きょうとですね。そういう移動知事室というのを昨年から始めまして、最初は試行錯誤で富士で始めたんですけれども、それを入れますと、もうこれで何回目ですかね、9回目になりますね。そういうことでございます。

昨日は南伊豆の下田高校の南伊豆分校にまいりまして、その高校生ですね、お芋をつくったり、あるいはアワを、もう栽培されていないものをもう一度復活させたりしている少年といいますか、高校生のお話を聞いたりして、そしてまた夕刻はそちらの地域のリーダーの方々と夕食を共にしながら、いろんな意見交換をするというふうなことをしており

ます。

きょうはあいにくの天気で、細野高原の美しいススキを見ることができると思って、きのうは眠れないくらい楽しみにしていたんですけども、残念ながら行ったら大雨でした。しかし町長さんほか、皆待っていてくださって、本当に感激しましたが、しかしさすがです、雨が降っていてもきれいだった。さすがですよ。やっぱり仙石原というのがありますが、けたが違いますね、万石原というぐらい。

そういうススキの景観、これは江戸時代からずっと重ねてこられて、そしてジオサイトの1つとして、そして富士山が世界文化遺産になって、これから環境保全を大事にしているということから入山料を取るようにならしたところ、こちらでもやはり環境ということで入山料を取られましたならば、どなたも反対なさらなくて、向こうは1,000円ですけどもこちらは500円を皆さんが好意的に出していただいて環境保全のために役立つというようなことで、この東伊豆は細野高原、そしてまたこちらは温泉もございまして、河津には紅葉の、東伊豆のみならず河津にも品種が幾つあるか、河津だけで370品種あります。

お花の種類は静岡県全県下で704品目もあります。1品目に河津だけでカーネーション畑で370~380の品種をつくっているんですよ。ですから1品目につき大体100品種ぐらいありますから、704品目に100品種あるとすれば、もう7万以上の品種があるということです。その大半が、この花の半島とも言うべき伊豆半島にございます。ですから本当にここは花にあふれているところだということで、ジオパーク、花、花が咲くということは実のなるものができるということですから、したがって食材が優れている。

海と山の両方がございますので、海と山の風景の画廊の中で美しい食材を旬のものをいただけるということで、可能性が非常に大きいというふうに思っております、きょうはそうしたことを中心にお話を承れるんじゃないかと思って楽しみにしております。2時間、長丁場でございますけれども、最後の方では皆様方の中で何人かの方々の御意見を承る機会が得られればというように念じております。どうぞよろしく願いいたします。

<発言者1>

北川温泉の発言者1と申します。

きょうは、「ないものねだりからあるもの探しへ」というような話をしたいと思います。これについて北川温泉がどのように取り組んでいるか、その辺を報告させていただきます。

皆さん、御存じのように北川温泉というのは人口約 250 人程度で、この東伊豆町の一番小さな集落でございます。大小 7 軒の旅館、ホテルがありまして、年間宿泊者数が去年の集計で 9 万 2,000 人です。大震災前までは年間 10 万人を何とか維持していたんですけども、震災後 9 万人台で止まっております。

こういう中でどのようにしようかということをお考えまして、観光協会全体予算、約 700 万程度、この限られた予算の中で誘客宣伝、こういうものをして効果というのは限られております。じゃどうしようかということで、何を行うにしても全員の協力がなければできない。これだけの少人数でやっぱり協力ということが非常に大事であります。幸いこの北川では何をやるにも進んで参加して協力してくれるこういうメンバーがいます。そういうのが好きなのか、いやいややっているか知らないんですが、そういうのを私は「北川人（ほっかわびと）」という特別な称号で呼んでおります。これはだれでも参加できるものでございます。

まずこの北川の取り組みとしまして、「北川さかな祭り」というのを十数年前に始めております。この「さかな祭り」というのは、定置網で朝揚げた魚をその場で炭火で焼いて、お客様、観光客に食べていただく、4 月、5 月の日曜日にやっております。ただ、朝になって何が入るかわからない。ときどき余り魚が入らないときもありますけれども、大きなものはブリから、小さなものはイワシまで、そういう感じで炭火で焼いて喜んでいただきます。

しかし、この「祭り」という言葉が、何か大きな規模とか華やかなものを連想しまして、北川では余りふさわしくない呼び方じゃないかという形で、6 年ほど前から名前を変えて「ねこさいの日」という名前をつけました。「ねこさい」というのは恐らく皆さん余り聞いたことがない、あるいは聞いても余り意味がわからないという方がいると思いますけれども、「ねこさい」というのは古く江戸時代から伝わっている定置網のことを伊豆から相模湾にかけては呼んでおります。北川ではなまって「ねこせえ」「ねこせえ」と言います。

そういう名前で北川らしく「ねこさい」という名前になりまして、その会場にも子育てと大漁の神様、これの道祖神の「賽の神」というのは皆様結構御存じかと思えます。この「賽の神様」に出張していただいて、これを祭壇に奉ります。ホラ貝を吹きまして、これが開始の合図でございます。昔、定置網では始めるときはホラ貝を吹いて村中に知らせ、みんな漁師が出てくる、これが昭和 30 年代まではそういうふうにしていました。

それで皆さんでその賽の神様の前に並んで、これは観光客の人ですが、二礼二拍手一礼、

これで厳かに始めます。そうするとやっぱりみんなで豊漁への感謝、そして楽しい旅ができるように、そういう感謝の願いを込めてお祈りいたします。

それで次に何か名物はないかということで考えまして、次に考えたのは「北川あじ鮓」でございます。北川近辺は昔は定置網で有名で、非常にアジがよく採れて、アジを鮓にするという形で作っております。ついでにこの「あじ鮓音頭」というのを作りました。だれか歌う人、あの辺に1人いますけどね。

それとあと清酒「北川びと」、これは芝川町の酒造屋さんに、このところが非常に協力いただきまして清酒までつくっています。それと「北川あじ鮓本舗」というロゴが入った前掛け、この前掛けをしまして、さかな祭りのときは魚を焼いたり、魚を料理したりします。特に魚をさばくのは、お客さんは非常に珍しいんですね。切り身の魚はよく知っているけど、丸の魚は見たことがないという方は結構いますので、そういうのが地についた我々のPR内容となっています。

6年前に北川の自然のすばらしさをあらわしましたオリジナルのCD「ムーンロード」というのを作りました。去年ぐらいから急にこの「ムーンロード」という言葉がはやったんですけども、6年前にCDを作っております。これはサンポーニャ奏者の方がおりますけれども、この人が北川に1週間ぐらい滞在して、北川のすばらしさ、雰囲気、これをもとにつくっております。サンポーニャの素朴な音色が北川の雰囲気にはぴったりではないかと思えます。

それとIOF、アイオと読みますが、伊豆オーシャンファンド、伊豆海洋基金というものをやりまして、これはさかな祭りで皆さんが、無料でやっていますので、寄附して下さった募金だとか、あるいはいろんなCDとかを売ったほんの一部のお金を積み立てまして、そういう基金を作っております。昨年大震災にもその中の一部を寄附させていただきました。

それで去年の12月に県が始めました恋愛とか結婚、子宝にまつわるうわさのスポットの人気投票、ふじのくにエンゼルパワースポット、この総選挙に北川の満月の夜に映る海のすばらしさ、これを立候補しまして、名付けて「ムーンロード」という名前をつけております。これが見事に「行ってみたい部門」という形で1位となりまして、これには県からも非常に援助をいただきまして、今現在開催中の細野高原のススキ祭り、これにあわせて市あるいは観光協会と共同で、月に感謝の祈りを捧げる「謝月祭」というのをことし初めて行いました。これは18、19、20日、つい先日ですね。これは全町、大川から稲取ま

で一斉に行いました。みんなで一緒にやるというのは非常に珍しい事案です。

北川では「ムーンロード」の作者さんが非常に忙しい中、好意によって来ていただきまして「ムーンロード」のライブを行いました。海岸に手づくりの舞台をつくりまして、波の音をバックに、非常に心に染みるコンサートになっております。観光客や地元の方々にも非常に好評で、月が出てなくて、雨がぱらぱらとしたのがちょっと残念でしたが、来年やるときには満月の日にあわせてやりたいと思っております。

今後、今ムーンロードの海岸沿いに遊歩道があるんですが、そこに来年、町あるいは町のボランティアの方と地元と共同で月が見えるテラスをつくらうと、座って見えるテラスを、これを今計画しております。こういうムーンロードを歩いて、若い人がムーンロードをバーズロードにするというこれが我々の夢でございます。

今、町では年間100万人の宿泊客を目標にしていますが、北川温泉は10万人を目指しています。しかし大きな宣伝予算もなく、これといった特効薬もありません。世界文化遺産に認定された富士山を見ることはできません。これがあればいいなというのはないものねだりですので、この東伊豆の町に何が一体あるのか、温泉とかキンメダイ、細野高原のススキ、満月、いろいろありますけれども、私はこれからはジオパークじゃないかと思えます。

このジオパークというのは第2の国立公園、これくらいの位置づけになると思えます。北川から稲取まで、ライオン岩から始まって黒根の溶岩の流れですとか、北川から見た東海岸のすばらしさとか、そういうものがいろいろあります。こういうあるものを探す、いわゆるあるもの探しですね。今までわからない、気がつかないものがまだまだあると思えます。こういうものを探して、すばらしい伊豆半島、これを観光客にジオのすばらしさというものをアピールしていきたいと思えます。北川でも去年、ジオパークの認定試験3級で、何を見てもいいというんですけれども、20数名、30名近い方々が合格しております。この合格に終わらないで、これを生かしたまた次の観光の目玉にしたいと思っております。

来年の3月、待望の伊豆縦貫道、これが沼津インターから修善寺までつながります。また圏央道の八王子から厚木まで開通します。そうすると人の流れというのは非常に変わってくると思えます。これは新しいあるものを利用して、これからどんどん、どんどん伊豆が元気になるような形で観光をやっていききたいと思えます。

「青い空と青い海、おいしい魚とみんなの笑顔、シンプルがいいね。北川温泉」、このスローガンで我々北川人は一步一步前進したいと思えます。どうもありがとうございました。

< 発言者 2 >

本日はこのような席にお招きいただきありがとうございます。私は河津七滝地区で飲食店をしながら3人の子育てをしている発言者2と申します。本日はよろしく申し上げます。

県知事には一昨年、七滝地区にて発生した落石事故の後、新名所として踊り子滝見橋を架けてくださったこと、また先日より着工していただいている遊歩道の整備には、地元住民、観光業に携わっている一人として感謝申し上げます。震災から半年後の台風がもたらした落石事故以来、かなり急減していた観光客の入り込みが、この橋のおかげで徐々に回復傾向にあり、観光業をしている私を含めた観光協会会員、地元住民も大変喜んでおります。

さて、私が飲食店をしている七滝地区では、ことし7月末に人気テレビドラマに取り上げられ、地元グルメ、ごはんにかつ節をかけ、生ワサビをすりおろし、しょう油をかけて食べるというワサビ丼と、同時に地元で生産されたイチゴを使ったスイーツも紹介され、毎週末、駐車場を求め大渋滞が起きるほどの人気となっており、これからも期待が寄せられています。

そこで町にも観光協会にもお願いしておりますが、世界文化遺産富士山とジオパークをあわせた伊豆への広告宣伝、チラシ、ポスター作成、ソーシャルネットワークシステムでの話題の拡散などに協力、お力添えをぜひいただきたいと思っております。

もう1点、地震だけではなく、近年ふえ続けているゲリラ豪雨、河津でも7月18日未明に1時間に110ミリという猛烈な雨が降りました。西伊豆や、先日の大島の被害を見ると、普通に生活しているだれもが不安に感じています。いつ起きるかわからない自然災害の中でも、少しでも何か対策をと思いながら、河津では災害が起きてしまったときに、津波だけではなく、がけ崩れなどで道路が寸断され孤立してしまうという地域が予想されていて、その中に七滝地区も入っています。

先日そんなときのために地域に緊急時にドクターヘリ等が降りられるヘリポートが必要ではないかという話になり、私たちは自分の家族はもちろん、観光客のお客様の避難誘導や救助にも当たらなければならないというところもあり、自衛隊を派遣していただいても、山間部に来るまでの車はなかなか難しいと思っております。孤立してしまったときに、緊急時などにもドクターヘリなどが降りられるヘリポートがぜひ必要となっておりますので、町と協力していただき、早急に対策、対応していただきたいと思っております。よりよく観光客のお客様にも安心して来ていただける町をつくっていきたく思いますので、ぜひよろしくお

願いたします。私からは以上となります。

<県知事>

発言者1さん、発言者2さん、どうもありがとうございました。言うことはもうないですね。(笑) ミスター北川人としてムーンロード、何しろ1位ですからね。そしてこの「青い空と青い海、おいしい魚とみんなの笑顔、シンプルがいいね。」実に流れもよくて、先ほどもこれを見ないでぱっと言われましたけど、いかに郷土を愛して、ないものねだりからあるもの探しをやる。あるものとして、さらにこの北川だけじゃなくて、伊豆半島全体のジオパークというのをひとつ視野に入れてやろうじゃないかというのはありがたいことでございます。

ジオパークは国立公園というふうに言われましたが違います、国際です。ですから世界の公園ですよ。今のところは国内のジオパーク委員会に認定されましたけれども、再来年には世界ジオパークになりますから、要するに富士山と並ぶということです。世界標準になるということです。これを1930年代に川端康成さんが海と山の風景の画廊だと、伊豆半島は1つの公園であるというふうに言われましたけれども、まさに山は富士山かもしれませぬ。しかしこちらは伊豆半島、ここに山もあり海もある、海と山の風景の画廊であるとして、このジオパークは国際的世界標準のパークになるということなんですね。

そしてここに幸運があるということで、バージンロードをちゃんと見据えてムーンロードと、今度テラスもおつくりになる。そこに非常にロマンチックと思われるロマンスグレイ(笑)の発言者1さんを見ていると、非常にそういう優しい心持ちがあって、若い人に幸せをつかませてやろうというのでテラスを、2人で月を見ているとどんな感じかという、すごくいいですね。架け橋になるかもしれません。あるいは結婚しようねということで、本当にバージンロードですね。そんな感じになるかもしれないと思って、非常にいいと思いましたね。それから、こちらで採れる定置網を活用した食材を採れたもの、これを皆さんに感謝を持っていただいていただくための装置も考えておられるということは何よりです。

一方、発言者2さんは、きちっと今の世の中の流れを見ながらワサビ丼、これをお店で出されて、引きも切らない人気だということで、しかも七滝、一部ちょっと大滝のところ、申しわけありません、ちょっと今地権者とうまくいってないところがあるんでしたっけ。何とかそういう難関を乗り切って、七滝をそれぞれ見られるようにしていきたい。

防災のことを言われましたね。来年度の総合防災訓練は賀茂地域で、基本的には下田が中心になりますけれども、賀茂全体を見ながらということですね。そうするともちろん道路が仮に寸断されれば、今おっしゃったように空からということになります、海ということになります。ですから海からヘリコプターを飛ばして、救助すべき人は救助したり、あるいは救援隊が降りたりするということで、空と海が極めて重要になります。ですから自衛隊もまいりますし、ここは今この数年間、アメリカ軍も海兵隊も海軍も陸軍も参加してくれておりまして、ものすごく信頼関係があるんですよ。

この間、在日米軍の司令官が着任されたときの就任式に、県として初めて、47都道府県の中でですよ。初めてその就任式に静岡県だけは特別だということで招いてくれましたよ。だから防災についてアメリカ軍の自衛隊のそういう援助を受けるときの受け入れる援助体制、受援体制ができていくということで、来年の総合防災訓練は、これは東日本大震災ということから、地形がその意味では人々がお住まいになっているところが海に近いということから、それを念頭に置いてやるということでございますので、そのヘリポートをどこにするかということなども、これから本格的に考えねばならないと。

ドクターヘリについては、いわゆる夜間のドクターヘリをどこにするかということで、一応賀茂地域の場所を1つ今選定し、ほぼ終わりました。なかなかそのヘリポートを定めるのが大変なんですよ。昼間ならいいんですけど、夜間は騒音の問題がありまして。一方、病院の近く、浜松なり静岡で、そのヘリポートを定めるのも本当に大変で、今ようやく1つが定まるかなという感じです。幾つもの候補を与えて、それが全部騒音の問題でキャンセルというかだめになったということがありますので、しかし災害は昼夜を選びませんので、そういうことで今一生懸命やっておりますけれども、そういう問題提起を出していただいております。

それからワサビというのはきれいな水のところでしかできませんね。そこがいいと思うんですよ。きれいな水のあるところだというそういうメッセージがありますよね。それと同時に、ワサビといえば和食の、特にお寿司であるとか、刺身であるとか、不可欠です。この和食が今度は世界無形文化遺産に12月の初旬にアゼルバイジャンで正式に決定される見込みですね。ですから、このワサビが世界性を持つ。

ワサビの世界における最高の産地はどこでしょうか。静岡県です。こちらですね。ですから、ここが健康食、自然と人間との生活が極めて調和しているということで、日本の和食というのが選ばれる算段になっているわけですが、そういうふうはその食文化において

も、ワサビを通して和食が、そして和食というのは旬のものを食べます。見て美しい、旬のものが一番たくさんあるのはどこでしょうか。静岡県です。

農産物だけで 339、覚えやすいですよ、三三が九ですから、覚えやすいですよ、339 種。これは平成 23 年度です。海産物はキンメダイ等を入れて 100 品目ありますから、これも覚えやすい 100 ですから。三三が九の 339 足す 100 は 439 です。439 品目も春夏秋冬、何らかの旬のものが採れるところは日本広しといえどもほかにありません。ちなみに 2 位は鹿児島県です。農産物が 160 種類、海産物が 58 種類で、足すと 218 です。うちは 439 です。218 の倍は 436 ですから、2 倍以上あるんです。

だから和食が世界無形文化遺産としてそれを楽しむためにはどこに行ったらいいか、そういうことですね。こっちに来たらいい、そういう宣伝をしなきゃいけません。ですからこれからの宣伝は東京だけを向いてはいけないということで、世界のジオパークになるわけですから、世界の和食文化になるわけですから、世界を知らないといけません。

だから伊豆半島の方たちは、ここにはだめなんです。世界へ、何だこの程度かということを確認するために観光協会の人たちは、そうですね、海のある景観としては例えば北海道なら小樽に行くとか函館に行くとか、あるいは西の方だったら門司に行くとか下関に行くとか、そういうところに行って、いいものを盗んでくる。そして自分たちの特徴を生かせるもの、つまりあるもの探しを、北川で発言者 1 さんがやっていたらっしゃるような、あるものを通して、うちの世界的な魅力を訴えていくと。

もし時間とお金に余裕のある方は、近隣の外国ですね、彼らの行動パターンは日本人と全然違いますから、清潔感も全然違います。お風呂の入り方も全然違います。だからといってだめだと言ってはしようがないので、それは文化ですから。相手の敵状を査察することじゃないですが、楽しめばいいんですが、お仲間と一緒に行って、こういうことだ、こういう行動の仕方をするんだということを学んで、それを入れ込んで当然としてやっていくと、本当に世界性というものが心の中にも準備としてできるんじゃないかというふうに思いますね。だから今ジオパーク、それから和食文化、あとは心配なのは防災ですが、来年きっちりやりますので、ぜひ御参加賜りますようお願いを申し上げます。

< 発言者 3 >

河津グルメ&魅力発信プロジェクトメンバーの発言者 3 と申します。本日は大変緊張しているんですが、どうぞよろしく申し上げます。

私は日々伊豆急行において鉄道車両の整備をしています、約2年ほど前から地域の活性化に携わせていただいております。その中で河津町において国際品グルメ開発、また地域資源の情報発信活動に参加させていただき、いろいろな経験をさせていただいております。

この事業は四季を通じて観光客を誘導したり、特産品を活用した新たなグルメ開発、効果的な情報発信活動により、わざわざ河津まで足を運んでもらいたいという目的の中スタートし、2年と数カ月がたち、先日ワサビを中心とした7品のメニューが完成しました。来年2月、東京ビックサイトで行われるグルメ&ダイニングショーという場への出店、その後どのような形にして全国に発信していくか、また地域に根付いていくものにつながるかが今後の目標でもあり、課題でもあります。

この事業を進めていく中で、各方面の方々が参加している中、役割分担というのは大変重要であると感じました。その中で私にできることは何かと考え、地域住民の方との話の中で何かきっかけづくりみたいなことができればと、その中から新たな発想やアクションにつながるのではないかと感じました。

地域住民の方との話の中でまず感じたことは、地元にながらまだまだ知らないことがあるなど新たな発見が多くありました。また、今まで当たり前で過ごしてきた環境を目線を変えて現地に足を運び、見て、聞いて、触れてと、地域住民の方の思いを感じることで、私自身が地域の魅力というものを改めて知り、大きな可能性のきっかけを感じました。

地域の活性化に携わり、まだ2年足らずで、本業との合間での活動でしたので、時間にしたらわずかです。偉そうなことは言えませんが、活性化に携わり、この事業をきっかけに感じたことがあります。それは生まれ育った町の魅力や可能性を子供たちにも感じてもらいたいと。私自身5人の子供に恵まれ、何かを残し伝え託していきたいという思いが強く生まれました。

この事業を通じて同世代の子供を持つお母さん方と話す機会がふえ、その中で感じることは、子供たちへの教育は熱心だなということです。特に私が子供のころに比べ、体を動かすということへの活動や体験が活発に行われています。子供たちへの夢やさまざまな可能性へのきっかけづくりを積極的に行っていると感じます。

また、この地は自然が豊かです。この自然豊かな環境での活動は、子供たちの将来に大きく生かされるはずで、この地の自然のすばらしさを感じることも、地域の魅力を知る1つのきっかけだと。私は自然で培った感性というのは、ここぞというときに光を放つと

思います。そして生き抜く力につながると感じます。何かこうした活動や環境を伸ばしていく方法はないかと、さらに地域間同士の交流にも発展できないかと考えます。

少し話はそれてしまうかもしれませんが、これは町政への提言も含めてですが、7年後東京オリンピックが開催します。これは1つの大きなきっかけになるのではないかと思います。地元から、静岡県から1人でも多くオリンピックの舞台を夢見て、その舞台に立つことができれば、また携わることができれば素晴らしいことではないかと思います。そして日本を代表するような選手が生まれれば、地域に夢を与えることと思います。

そこで何かスポーツ全般を通し、全国1位を目指せるような取り組みや育成が今以上に活発になればと。例えば静岡県においてスポーツテストや体力テストなど、全国1位を目指すとか、その地域の特色を生かした運動能力向上につながる活動や体験を通じ、地域間同士の交流を活発に行い、競い合いの場がふえれば、自然にその地の静岡県全体の魅力を知るきっかけにもなるはずです。静岡県全体が1つの目標に向かうことで、子供たちの夢への実現の手助けや、夢を描くきっかけづくりにも大きな役割を果たすのではないかと感じます。

そのために何ができるかと考えても、すぐに答えは出ませんが、今はまだ思いをぶつけることぐらいしかできませんが、地域全体で静岡県全体で目標を持ってやるのが大切だと思います。まだ歩き始めたばかりですが、今取り組んでいる事業を通じ、地域の魅力を発信するとともに、より多くの地域の方と話すことから、聞くことから、さまざまな可能性へのきっかけづくりを、そして明日の人づくり、まちづくりにつなげていければと思います。以上です。

#### < 発言者4 >

こんにちは、伊豆漁協稲取支所の発言者4です。よろしく申し上げます。稲取の伝統的な漁業を2つ紹介しながら、少しお願いを含めて話をさせていただきます。

稲取では古くからキンメ漁、テングサ漁を営んでおります。キンメ漁に関しては、現在約50隻ほどの船が年間を通して操業し、24年度は123トンの水揚げ、全体水揚げの60%を占めています。「稲取キンメ」としてテレビの旅番組や料理番組等で数多く取り上げられるようになり、ほかのキンメとの差別化が消費者への食の安全性、信頼性につながるのではと、東伊豆町、静岡県水産技術研究所伊豆分場に相談をして、ブランド化に向けて検討を進めてきました。

平成 23 年 2 月に先ほど知事が紹介しました「しずおか食のセレクション」において「稲取キンメ」が認定を受けました。25 年 6 月には申請から約 2 年半がたって、「稲取キンメ」が特許庁地域団体商標の登録となりました。「稲取キンメ」とは、町の所属船が日戻り操業で水揚げされた一本釣りのキンメのことで、鮮度、脂ののりがよく、おいしいのが特徴で、地元では祝いの席には欠かすことのできない魚です。

我々は常に最高のキンメを提供するのが役目であり、キンメを使って町の活性化につながればと願っています。しかし、キンメ漁においては、潮の流れや天候に大きく左右され、出漁できない日が 1 週間も続くこともあります。今後、稲取に来れば、いつでも「稲取キンメ」を食べられるように、急速冷凍施設の整備の検討も進めていかなければと思っております。

また、漁協施設を核とした港周辺に地元住民や観光客が集まるような市場食堂、地場産品等の販売をする施設の建設や公園の整備が、22 年 11 月に発足した稲取漁港周辺整備推進部会のメンバーの夢であり、夢を少しずつでも現実に近づけるよう、これからも検討を重ね、この町並みと港が一体化した稲取漁港を中心とした地域の活性化のために行政等に働きかけをして、計画の実現に少しでも近づくよう努力していきたいと思っております。

次に、テングサ漁について。明治の初め、ほかの地区のテングサに比べ安値だった原因を突き止め、当時の村長が資産を投げ打って、干し場の改良や繁殖保護の措置をとった結果、明治 4 年ごろには 800 円程度の収益が、20 年には 1 万円を超え、当時の稲取村の重要な財源になったと聞いております。

現在でも良質なテングサが水揚げされ、共販テングサ入札会においては常に最高値に入札され、高い評価を得ています。しかしながら、現在では稲取では 1 隻しか操業しておらず、今後のテングサ漁の存続が難しくなっています。

テングサは 1 年草で、毎年収穫することで良質な根が発生し、翌年につながります。漁法としては船上よりエアーコンプレッサーでゴムホースを通じて海中の海女に空気を送る弁船という方法で行われていますが、これは特殊な漁で、新たに弁船施設の設備投資や海女の育成は難しいのが現状です。

弁船による操業は知事許可を受けていますが、これにかわる漁法としてアクアラングによるテングサ漁ができないか、県水産資源課と調整中です。船からアクアラングによるテングサ操業が可能であれば、いろんな装備で対応でき、後継者の育成をも見込むことができるし、支所として許可を受けることができれば資源管理、漁場管理をしながら地域の伝

統漁業、食文化の継承、資源の有効活用による漁業の活性化が期待できると思います。今後も続けて水産資源課と調整し、実現に向けて努力していきます。以上です。

<県知事>

お二人とも前向きの御発言で申し分ない、地域を支える若い発言者3さんとベテランの発言者4さんのお話だったというふうに存じますが、発言者3さん、見て聞いて触れるというそれを通して地域の新しい発見があって、そしてお子様5人のために何か地域のために、しっかりお父さんとして残していきたいというそれがすばらしいと思いますね。そして先ほどの発言者2さんもそうでしたけれども、食の話なんですよ。グルメということで、やはり伊豆半島は食材に恵まれているんですね。発言者4さんのお話も食、発言者1さんのお話も食と、ここまで続く地域って余りないですよ。皆、食ということで、健康にいい話ですから、本当に。

それから一方、発言者3さんはスポーツでもなさりそうなお体つきですね。何ですか。

<発言者3>

ありがとうございます。今は特にやってないですけど、子供のときはサッカーだったんです。

<県知事>

そういうスポーツマンとして東京オリンピックに目を向けられているということですね。東京オリンピックはこちらは余り関係ないというふうに思う人がいるかもしれませんが、そんなことはありませんよ。東京オリンピックは静岡県で取り組む必要があります。7年後でしょう。7年後の東京オリンピックのために何ができるかと。

一見伊豆半島は遠いようですけれども、まず私は空港を東京オリンピックのために差し上げようと思っておりまして、それは9月の下旬にブエノスアイレスで決まりましたね、東京と。翌日に国交大臣、公明党さんのすばらしい人格者ですが、あの方が海外需要がふえると、7年後には。だからもう1本滑走路が要とおっしゃったでしょう。それを羽田につくるというんです。

羽田は4本あるんです。3,000メートルが2本と2,500メートルが2本、一番最近できたのが2,500メートルのA B C D、D滑走路というんです。そのD滑走路の横につくるから

E滑走路になりますね。D滑走路のコスト7,000億円です。7,000万円じゃなくて7,000億円なんですね。それでE滑走路をつくろうと思うと、埋め立ててつくったわけですが、さらに難しい、つまり深いところにつくらなくちゃならないでしょうから、したがって7,000億円以上かかるだろうということです。場合によっては1兆円ぐらいかかるかもしれないということですね。

そうしますと、東京都知事がいるでしょう。あの人は機を見て敏な人です。それだったら、そんなものつくる必要ないから横田基地、アメリカ軍の空軍基地ですけれども、それを軍民共用にすればいいじゃないかとおっしゃったんですよ。初めて聞いた人は、なるほどいい考えだと思うでしょう。これは元東京都知事が12年余りずっと言い続けてこられたことです。あの人は4期の途中でやめられましたね。だから12年以上言われていた。その前に運輸大臣されていたのは御存じですか。そのときも言っていた。もう十数年間ずっと言いつ放しで、できない相談なんですよ。

それはそうでしょう。アメリカにとって敵勢と思われるイスラム原理主義者だとか、ロシアだとか、中国とか、北朝鮮だとか、そのような人が、軍民共用で勝手にそこに入ってくるというふうなことを許しますか、オリンピックだけのために。難しいですよ。どちらもだめだなんて思って、静岡県は日本のために何ができるか。陳情などはしない。

この間、国交大臣と、プレゼントして差し上げますと、2,500メートルの空港が初めからありますよ、あげますよと。何ですか。東京から140キロのところに空港がある。その下に新幹線が走っている。駅をつくれればいい。駅は自分でつくります、100億円でできますから。どんなにかかって、そうですね175億円だと。ややこしいでしょう。これは7,000億の40分の1ということです。それはもう10分の1だって700億円ですから。ほおっ、それはいいですねと。

仮に富士山が噴火したらどうなります？噴煙はどっちに流れるか。そうです、羽田に直撃するんです。横田を直撃するんです。皆向こうに行くんです。ですからアイスランドに昔大きな、2010年、大噴火がありました。あの結果、30万便が欠航したんです。アイスランドというのはイギリスのちょっと北の方にありますけど、イギリスのヒースロー空港という大空港がありますが、1カ月間機能不全です。そういうことがあったらどうしますかと言ったら、こちらには来ませんよ。「おおっ」ということになりますよね。そうすると熱海、三島、新富士、すぐ行けるでしょう、向こうに。それが1つ。

もう1つ、平成29年、今25年でしょう、4年後に中部横断自動車道ができ上がります。

あれは甲府と清水を結ぶやつです。これ今の半分以上になりますよ。

それからもう1つ、リニア新幹線、今2027年につくると言っているでしょう、名古屋と品川。甲府―大月、それからどっちにつくっていくでしょうか。甲府から山梨をずっと越えて静岡に入って、それから長野に入って愛知に行く、そこには大きなアルプスがあります。大月から向こうに行くのは何でもありませんよ、関東平野の下を走るだけです。品川の駅まで、私が社長だったら、まず品川まで結びつける。そして品川と甲府ができると、関東ローマ層の下の地質はわかっていますから、甲府と100キロぐらいでしょう。時速500キロで走るわけでしょう。60分の5分の1ですから10分そこそこで東京から甲府まで空飛ぶ新幹線。もっとも地下ですけれども、10センチでさっと。乗ってみたい人はたくさんいる。

甲府に来ると、身延線に乗ってもよし、あるいはレンタカーして中部横断自動車道に乗ってもいいし、こっちに来て、東駿河湾環状道路でこっちに来るのもよし、あるいはそこで新幹線に乗って静岡空港に行ってそこから帰ると。新幹線も乗った、リニアも乗った、できるでしょう。そうすると静岡県というのが防災のためにもできるし、平時の、もし何もないならばそういう形でも使えるということで、オリンピックは発言者3さんがおっしゃるように利用できるんですよ。

もちろん一番大切なことはスポーツを盛んにすることです。それは我々で考える。どういうスポーツを青年たちにオリンピックにかけてこの地域は何ができるかということは考えましょう。いずれにしてもオリンピックの問題というのは、案外関係ないようだけれども、実はできるということなんです。私はもうはっきりと願っております。

陳情に行くんじゃないですよ。空港つくってくださいとか、駅つくってくださいじゃなくて、「あげます」と。ねだるんじゃないで自分たちは何ができるかと、同じ考えですよ、発言者1さんも。ないものをねだるといんじゃないで、あるものを探して、自分たちが何ができるかということを考えるといい。そういう姿勢でしょう。

もう発言者4さんはさっきキンメダイ、お母様譲りのすごいキンメダイの煮物を、お腹をあわせる形で2匹出してくださいなんです、さっき。キンメダイをみんないただいたんですが、なぜお腹が合わされているか、背中合わせだとやっぱりよくないと。お腹は腹を割って話すということでおめでたいということの意味すると教えていただいて、ああ、これは必ず2匹を買わないといかんのだなというふうに思いましたが、そういうことをなさっておられて、これもいろいろと漁によってあるので、冷凍施設をきちっとすれば安定し

た供給ができるとおっしゃいましたね。

それからまたテングサについても、アクアラングを活用することができれば、さらに安定した供給ができる。解決策をもう言っているんですね。ですからこちらで稲取のキンメダイ、あるいはこちらでのテングサ、明治以来の伝統を近代の今の技術でどうしたらいいかということをお考えになっておられて、そしてそれは傾聴に値する御提言であったと、冷凍についても、アクアラングについても、そういうふうにお聞きいたしました。これ実現するにはちょっと技術的なことがきっとあるに違いないので、これは今の課題ではありますけれども、明確な御提言だというふうにお聞きした次第です。

<発言者5>

河津町で未就学児童と保護者に楽しい遊びを伝える「くれよん倶楽部」と、小学校での読み聞かせ「かつら文庫」の代表をしております発言者5と申します。

これらの現状を申し上げますと、まず「くれよん倶楽部」では3年前から親子が楽しく遊べる場所、育児サロン「チョコット」を運営しております。河津町には育児支援センターがありませんが、役場の行政とボランティアの団体が一体となって子育て支援に力を入れているという取り組みです。

開設時は思うような広さの場所がなく、どうしようかということでしたけれども、役場の一部屋を借りて、狭いけれどもとにかくやってみようということで始めた事業です。現在では利用者の方もたくさん多く、もっと広い場所が欲しいという声がたくさん上がっています。その場所が役場の町長室の並びにあるということで、河津町長もよく来てくださっては、お母さん方の話を聞いてくださっています。

そして「かつら文庫」では朝の読み聞かせのほか、ことしからは図書室の整備等も行ってきました。これらのボランティア活動を通して私が要望したいことが2つあります。1つは、県で催される子育て支援についての講演会やスキルアップの講習会などが静岡市で行われることが多く、賀茂地区の私たちとしては静岡市まで行くのに往復6時間、とても時間がかかります。

また交通費も自己負担となりますと、本当に主婦として、行きたいんだけども行けないなというところがありまして、こういうことがこちら賀茂地区で開催されればいいなと常に思っております。もしこういうことがこちらで開催できないのであれば、例えば賀茂地区でバスを用意していただいて、みんなで乗り合わせて参加する、そんなこともできな

いかな、そうしたらもっと参加する人々が多くなるんじゃないかなと思っております。

十数年前、息子を育ててきたころと今とは、社会の様子も、子育ても随分変わってきています。私たちが今子育て支援をしてほしいという方々に提供するのであれば、私たちのスキルアップは欠かせないことだと思うんですね。ですからそういう場所を近くでできるような環境を整えていただきたいなと思っております。

もう1つの要望は、子供に関することの県の予算なんですけれども、減らさないでほしいなと思います。実は昨年、河津町では学校図書館活用支援員という事業がありました。司書の方が河津町の1つの小学校に来てくださって、図書室の整理を行っていただきました。それによりとても図書室が使いやすくなって、授業の中でも図書室を活用することが多くなりました。子供たちも本を手にするのが多くなったんです。

とてもいい事業でしたが、県からの予算は1年で終わってしまい、あとは町からの予算で続けてほしいということでした。町もやはり子供にかけてくださることはいっぱいあるんですけれども、なかなかそういう事業がふやせないということで、その事業はできなかつたんですが、私たちはボランティアでほそぼそとできることを続けていこうと思って今も動いております。予算については、子供のことばかりには使えないと思うんですけれども、ぜひ子供に関することの予算を減らさずにお願いしたいと思います。

最後にCDを聞いていただきたいと思います。このCDは20年前につくられて、子供たちに歌い継がれた『空より高く』というCDなんですけれども、今子供たちの心はとても荒れているというか、すさんでいるな、弱くなっているなというのを、子供に接してとても強く思うんですね。それで今回このCDをリメイクされて、ぜひ河津町の子供たちに聞いてほしいと思ひまして、今月から各クラスを回って、メッセージと歌を聞いてもらっています。きょうはその1番の曲を聞いていただきたいと思います。

『空より高く』2011年3月11日、東日本を襲った大地震と大津波、そして福島第1原発の過酷事故、2年がたってもなお復旧復興にほど遠い現実があります。あの東日本大震災発生から9日目、岩手放送に匿名で送られてきた保育園児が歌う『空より高く』。放送したところ、リクエストが殺到したといひます。保育園「ちゃいるどスクール」の園長さんから以下のようなエピソードを伺ひました。

震災直後、「あなたたちにできることは？」という園長さんの問いに、「歌が歌える」と小さな人たちは答えたそうです。それが放送局に送られてきた園児たちの歌声だったので。子供たちの歌声が被災地で大きな励ましになったと聞き、制作者として感無量です。

今ここにCD絵本としてリメイクしました。売上金の一部は、ふるさとにまだ帰ることができない福島の16万人の人々を初め、心が晴れない人々に少しでもお役に立つことを願って、子供たちが生まれてきてよかったと思える社会を、お年寄りが長生きしてよかったとうなずける時代を御一緒につくっていきましょう。

2013年2月1日、クレヨンハウス主宰落合恵子。

(CD『空より高く』)

ありがとうございました。

これからも子供たちが元気で健やかに成長できるように、そのお手伝いをしていくために私たちももっともっと努力をしていきます。本日はありがとうございました。

<発言者6>

発言者5さんのすばらしい発表の後で、今いい気分になられている皆さん、優しいお顔になられたので、このままさよならをする方が(笑)、おばさんが出てきてしまいました、ちょっとお時間もかかりましたので、皆さんちょっと手を少し挙げて深呼吸をして、東伊豆の空気を腹いっぱい吸っていただきました。ありがとうございます。力がわいたような気分でございますけれども、お時間を少し頂戴したいと思います。

トラベルヘルパーセンター東伊豆というのを代表しております。代表というのはおこがましい名前前で、裏方のばたばたといろいろ取り仕切るおばさんだと思ってください。きょう知事と語る会ということなので、知事の顔を見ながら話すのだとばかり思っておりまして、お願い事なんかも考えてきたんですけれども、そういうことをする場じゃないなど。代表ではなくて、私広報担当だものですから、会場を下見したときにもうびっくりで、お客様がこっち向いているんだということで、どうしようというので、全部原稿をやめることにいたしました。知事にはまた違う機会にお願いをしたいことはしたいと思います。

ふざけたような女で申しわけございませんが、トラベルヘルパーという言葉をきょう初めて耳にしたよという方がいらっしゃったら、ちょっと手を挙げていただいてよろしいでしょうか。ありがとうございます。トラベルヘルパーで呼んでいただきましたのに、でもそうなんですよね。本当に私も3年前、2010年の秋までは、ちょうど今ごろなんです、なんじゃそりやという感じでした。

ただの主婦から始まりまして、この町に生まれ、母は稲取の出、父は片瀬の出、ですから稲取と片瀬のハーフなんですね。ちょっと学生の時代、東京の方へ出ましたけれども、縁あって、片瀬からただ白田川を渡っただけの白田というところに嫁いで35年ぐらいたちました。いろいろな本当にきょうここにいらっしゃる方、なんか御縁があったなと思っております。会場にも知っていらっしゃる方がいっぱいいて、なんかもうそれだけで胸がいっぱいですが、「出会いが人生を変える」という相田みつをさんの言葉が好きなんですけれども、こう見えても小さいころは無口で赤面症だったんです、うそという視線がきますけれども。

でも、ずっと生きていく中で自分の考えを言葉で伝えるということですね。それから伝える前に自分が何をしたいかということを考えないと伝えられないということに、この年になってやっとやっと気づいてきまして、今何ができるかなということのを偉そうですがいつも考えています。

すごくへこむこともあるんですけども、その中からただで転んでなるものかと、これが稲取女ど根性の血が入っているんですね。転んでもただでは起きるなど。人前では泣くなど。やられたら、何倍返しですか。にっこり笑ってお返しすることにいたしております。

お話続きますが、このトラベルヘルパーというのは、先ほど会場の方でこういったパンフレット等を入り口でお配りさせていただいたと思います。私がぺらぺらしゃべるよりも、これをじっくり後で読んでいただいた方がわかるかと思います。そしてもしインターネットとかなさるようでしたら、「介護旅行」とか「トラベルヘルパー」としていただくと、うちの本部、SPIあ・える倶楽部というんですが、そちらの方で介護旅行を日本で20年近く手がけている会社のホームページですとか、そこからうちのトラベルヘルパーセンターのブログというのも出てきますので、日々どんなことをやっているといったところは、その辺で見ただけであればと思います。

ここにうちのトラベルヘルパーが2人来ておりますので、ちょっとお立ちになって皆さんにお顔を見せていただきたいと思います。(拍手)

トラベルヘルパーって何するの。介護技術を身につけて、それとあわせもって旅の業務の知識を持っているプロということで認識していただきたいと思います。お出かけ、旅行、介護旅行というと、どこか遠くに行くということをしるがすぐに想像してしまうと思うんですね。ではなくて、お体が不自由になられたり、高齢になったり、若くてもお体が不自由になっ

た方、おうちから一歩出ることがもう旅なんですね。そこから旅が始まる。

玄関出るのにどうしよう。ベッドから降りて、そこからどうしよう。おうちの中にいるときには、介護保険の中の保険が使えて、介護認定を受ければヘルパーさんが来てくださいます。公的に認められている介護保険というのは、暮らすためですから、おうちの中、施設の中、自分が生活しているところで受けるサービスということになります。

そうするとお出かけ、ちょっと買い物に行きたいとか、お墓参りに行きたいとか、お墓の掃除に行きたいとか、あるいは親戚とか、お孫さんの結婚式にもちょっと出てみたい。それはもう介護保険ではできないですので、御自分で料金を払わなければいけないということになりますね。私も嫁の時代がありますけれども、昔から家族介護というのが当たり前だった時代がずっと続いてきたかと思います。

ただ、だんだんいろいろ暮らしの形態もかわって、先ほど発言者5さんがおっしゃったように、今の親御さんたち、子育てをしている方たち、本当に大変なんですね。御夫婦で働かれて、子供をどこに預けようかとか、ボランティアに頼ったりとか、私たちもそういった子育てのことをしてきた時代もありますけれども、じゃ先ほどの発言者5さんの御意見にもありますが、長生きして悪かったのかなと、何か自分が生きていたのでは迷惑じゃないかなというようなことを言われたりすると、そうじゃないよというのは理性の方ではわかるんですが、本音のところに行くと、いつまでこれが続くんだろうというのも実際ですし、うちの嫁だったり娘だったり子供、息子を使えば、ただで連れていってもらえるのに、最初これが始まったときに、高いヘルパーさんたちだよねというひとくりにされたこともあるのですけれども、そうではなくて、家族にかわってちょっとの間、おじいちゃん、おばあちゃん、あるいはちょっと倒れてしまった、夫を倒して悪いですけども、脳梗塞を起こしてしまった主人だって、旅行に行きたがったり、同窓会にも行きたいねと。そこのところにヘルパーを頼んでもいいのではないかなと思います。

お金の使い方はそれぞれだと思いますが、先ほど知事と昼食をしながら言葉を受けたことですけども、使える方が自分のお金を自分の使いたいところに使ったら、それはいいのではないかと。無理やりだまして取るということではなくて、自分の人生のクオリティの中で何にどれだけかけるかというのは、御自身が決めればいいのではないかなと思っています。

このトラベルヘルパーの事業というのを2010年の秋から東伊豆町の方からお声がけがありまして、緊急雇用、ふるさと雇用という制度を利用して県の補助金を頂戴して、5人の

メンバーで本当に素人同然の者がゼロから集まって、まず3名のトラベルヘルパーというのを養成していただきました。本当に皆さんの税金を使わせていただいて、貴重な資格を取らせていただいたと思いますけれども、これをどういうふうに活用していくかというのは、はっきり言いまして1年半の約束でしたので、そのところでまだまだ私もよくわからなかったのでやめようかなと思ったのは事実でございます。

そのやめようかなと思ったあたりに、『カンブリア宮殿』ですとか、そういった報道で放映されまして、電話がかかってきてしまうんですね。どうやったらできるのと。やめられないと。行政の方と相談させていただいて、東伊豆町長の方から少しだけどいって事業支援を頂戴しました。それも切れるこの春どうしようかなと思いましたがけれども、やはり今度はNHKのゆうどきネットワークですとか、いろいろなものに取り上げられて、やっぱりやめるわけにはいかないと勝手に自分で思い込んで今に至っております。

詳しいいろんなことに使えるというのは、今度奈良本けやき公園というところの指定管理というのを受けまして、その足湯があるんですが、足湯棟のお掃除をしつつ、公園の整備というか掃除をしつつ、最初は5名いたメンバーですが、ちょっとそれでは非常に厳しいですので、1名分とちょっとこういうのを掃除する町からお代を頂戴しておりますので、1人分ちょっとぐらいのパートのおぼさんの感じかな、それを3人で分けているので、まだまだうちのヘルパーたちの善意に頼っているということになっております。

ちょっとお調子づいて、いろいろな県の観光政策課ですとか、いろいろきょうお見知りおきの方がいらして、観光政策課の方々にいろいろ勉強させていただいたり、事業が終わりというときに、修学旅行のつもりで県のニューツーリズム商品企画コンテストというのに出してみましたら、そのときがキンメの料理で発言者4さんにお世話になってやったんですね。そしたら何を間違ったか、審査員奨励賞というのをいただいてしまったので、ますますやめれなくなってしまって、町を変えるのは、よそ者と若者とばか者というのをいろいろな講演会で聞きます。私はよそ者ではありません、若くもありません、ばかなんだらうなと思ってやっております。(笑)

ですので、こんなところに出てきてぺらぺらと恥ずかしいなんですけれども、トラベルヘルパーという言葉を引きょう覚えていただいて、何だそれと聞いていただいたらうれしく思います。何だそれというのを聞きたいなという方は、どうぞ奈良本の山あいの方にけやき公園、わかりにくいところなんです。ですが、その大きなケヤキの下でちょっとした建物がありまして、無料の足湯があります。これは東伊豆町のものですからお湯が豊富で

ございます。火曜日定休、大晦日と元日だけはお休みを頂戴しますが、あとは9時～5時で営業しております。

経費を稼がなくてははいけませんので、「カフェおるも」といいます。フランス語でケヤキの若木という意味です。「おるも」を経営しながら、近所のお年寄りとかがちょっとランチを食べに来てくださったり、会場の方にもいらっしゃるんですが、妙齢なご婦人方が隠れカフェ的でのんびりするねといらしていただいております。ですので、ちょっとお立ち寄りいただいて、このぺらぺらしゃべるおばさんと、よく動くトラベルヘルパーがおりますので、どうぞ皆様お越しくさいます。大変失礼いたしました。

#### <県知事>

発言者5さんと発言者6さん、お優しいお2人のお話を聞かせていただきましてありがとうございます。

まず発言者5さんの子育てにかかわるいろんなセミナーですね、これが県庁がございませぬ静岡市で開かれることが多いということで、これは本当にすみませんでした。やはり静岡は横に長いとか広いので、西部、中部、東部というふうに分けては分けても、実際は5つぐらいに分けた方がいいというふうに思っております。浜松を中心にしたところと、それから静岡がありますが、その間、志太、榛原、中東遠、これで3つですね、それから東部といいますが、東海道よりも北側と、それから伊豆半島、少なくとも5つぐらいの大きな地域に分けて、そこを順繰りに回るといいうふうにした方がいいと思いますね。

私自身も静岡のど真ん中にいますと、どうしても西部とか東部とか賀茂地域とかというのがおろそかになりかねないので、それで心して回るようにしているんですけども、やはり今までのやり方を踏襲していると、静岡が中心だからお越しになればそれによろしいという、やや安易な気持ちでセミナーをやっている可能性がありますので、そこら辺のところはちょっと反省をして、子育てというのは大事ですので、それをやってみたいというふうに思っております。

子育て、今は高齢者は健康寿命が日本一でしょう、静岡県は日本一なんですよ。ですから、高齢者はそれとして健康寿命を延ばしていただく。そのためには食生活をしっかりとっていただくということと、それから軽い運動をしていただく。選挙運動もそのうちの1つだそうですね。(笑) 出ますからね。そうするとお仲間に出会うでしょう。それでいろいろと悪口言ったり、いいこと言ったりすると、それが社会参加になるんですね。ですからゲー

トボールでもよいし、あるいはちょっとした囲碁仲間でも何でもいいわけですが、そういうちょっとした社会参加を怠らないことがとても大切なようでございます。この3つ、食と軽い運動の継続と、それから引っ込み思案にならないで、外に出て社会参加をする。

これはコホート調査というのを既に静岡県はやっておりまして、多くの人たちのうち、どういう方が本当に健康で長寿になれるかという中で、この3つをなさっている方たちが、そうされてない方よりも長生きするという結果が出ておりまして、その結果を我々は知らないでやっていたんですよ、こういう健康寿命という言葉。そしたら世界保健機構がこれを出しまして、健康寿命こそが大事だと。長生きで寝たきりだと苦しいですからね、世話をする方も、世話される方も苦しいので。そして厚生労働省が調査した結果、どうして静岡県はそうなのかということで調査した結果、その3つをやっているからだということで、厚生労働大臣から最優秀賞をもらったんですよ。ですから、これを伸ばした方がいい。

もう一方、子育ての方は、大事なことはみんな知っているわけですが、なかなかそれが政策に結びつかないということで、私は若いお母さんたちが仕事をしたいと。子供の犠牲になって仕事ができなくなるのが嫌だという人がふえているので、これは考え方が違うと。やはり子育ては一番大切な仕事だと。義務教育というのは小学校1年から中学3年生まで国家の義務です。子供たちが教育を受ける権利です。それより前の幼稚園、保育園、さらに本当に小さな子供たちですね。その子供たちを養育するということがほど大切な仕事はないと。

これを仕事として見えるようにするにはどうしたらいいかということで、お母さんが一人でアパートで、あるいは一人で家の中でむずかる子をどうしよう、どうしようと不安になっているんじゃなくて、託児所なり保育園に行ってくださいと。行っていることそれ自体を仕事にするというふうにしたいと。なぜかという、そこで似たようなお母さん方がいらっしゃれば、先輩お母さんからいろいろと情報を得ることができるし、保育士もそこにいらっしゃればプロのやり方も聞くことができる。そしてそこで保育士の資格が取れるように、そういう環境ですからね。だから保育士の資格を取れるようにするということが一つ。つまり子育てをしながら資格が取れるようにできると。

それから、子供は必ずミルクとかおしめとかが必要です。いわゆるベビー用品というのがあります。ベビー用品をつくっている会社があるわけですね。その人たちは子供たちによって会社を運営しているわけですから、何かサービスしていただきませんかと言ったら、

クーポン券を出すというんですよ。それは31社になりました。ですから、つまり割引券です。若干の経済的な、給与とは言いませんが援助ですね。そういうことをこの2〜3カ月前から始めています。

今のところは保育士になるというほうは、実験的にやるということで、富士市と藤枝市でやり始めまして、応募がものすごくふえて、最初は定員10名にしたと。ところが応募が多いので、定員を2倍にしましたと言いに来たんですよ、20名に。実際応募が80名以上あったという。20名にしましたと言っているから、何を言っているんですか、定員を決めたのはだれですかと。定員は申込者の数だけにすればよろしいということで、全員になっていただくことが目的なものですから、全お母さんがお母さんをしながら保育士の資格が取れると。元の仕事とはちょっと違うけれども、場合によっては保育士にもなれると。保育士が必ず不足するということが統計的にはっきりしているんです。だからそういう資格を取っておくと、将来役に立つかもしれないということですね。そういうことをやっております。

ともあれ、子供を育てるということは最も尊い仕事だという考え方をもちたいものだと。みんなでお母さんが大変なら、おじいちゃん、おばあちゃん、あるいは地域の人たちで育てるというそういう哲学を持ちたいものだというふうに思っております。

それから図書館の関係で、県の補助が切れたということですが、これちょっときょう初めて聞きましたので、調べさせてください。

それから、さっき『空より高く』を僕にどうしても持って帰って聞いてほしいとおっしゃるんです。私だけ聞いたって、それは372万の人が聞いた方がいいでしょう。せめてここにいらっしゃる人に聞いてもらおうということで、歌詞を『蛍の光』のメロディーにつけたんですね。だからそこをちゃんと受けて発言者6さん、「はい、さよなら」と。(笑)

この方、深呼吸しなさいとおっしゃった。すごい人ですね。深呼吸というのは酸素入れることでしょうか。ですから元気になるんですよ。だから困ったときには深呼吸。悩んだときには深呼吸。深呼吸するとびんと背中も張りますので、背筋が伸びますから、酸素が入るので頭痛も治るといいます。一番痛いところに深呼吸で酸素がいくようにすれば、痛いのがとれるということを言っている人もいます。効き目のほどはどうかわかりませんが、深呼吸、そこから入られましたのでびっくりしました。本当に東伊豆の人はいい。

そして、けやき公園はこれによると奈良本（ならもと）というところにあるんですね。奈良のもと、都の、どうもこの賀茂地域というのは、賀茂という名前もそうですけれども、

何か都ぶりがあるじゃないですか。仏様もすごいでしょ。平安朝とか鎌倉初期のやつをこの間見せていただきまして、函南でも見ました。ですから何か京都や奈良の最高のものがどういう理由かきています。それをちゃんと説明してくださる方がいないので、おもしろいですよ。

上原美術館にきのう行ったんですよ。そしたらそこにいた仏教美術をやっている人が東京から来て、来た途端にもう帰りたいと思ったそうですよ。ところが仏教の仏像があちらこちらにあるのがわかって、もう10年以上居着いて、家を建てたって、この間。もういることに決めたと。だから相当奥が深いです。ですからこの奈良本もそういう場所に違いなし。そこに行って、けやき公園に行けば常におもしろい話が聞けると、こういうことですね。

そして介護職の資格を取る。そして外に連れ出すというそういう悩んでいる方たちにとっては非常に優しい仕事ですけれども、これをどういう形で助ければいいのかと思うんですが、それなりのこれを見ると、半日、軽度で1万3,650円、1日だと2万1,000円、中度だと半日1万5,700円、1日だと2万4,150円ということで、重度になると1日2万6,250円、ちょっと交渉して250円まけてもらおうと言いたくなるような値段ではありますけれども、こういうので競争して、そして多くなると会社といいますか、こういう団体も繁盛するし値段も下がるということで、これは障害があつて困っている人にとってはいいに違いありませんので、これを広めることを通して値段を安くしていくとすることができるんじゃないかと。

それから、この絵を見てもそうですけれども、車椅子が必要でしょう。車椅子って重さどのぐらいか御存じですか。15～16キロあります。これはなかなか女性の方、重たいですよ。これを今もっと軽くできないかということで5キロにまで下げました。これは橋本エンジニアリングという浜松の企業がやまして、ちょっと値段を聞くのを忘れたんですけども、片手で持てるんですよ、5キロですから。買い物で大根だとか、キンメダイだとか、いっぱい買って5キロぐらいになるでしょう。そのぐらいのものが今できています。ですから介護の器具というのもっと改善できると。

介護職というのはきついということでやめる人が多いので、私どもは介護の職に資格を差し上げると同時に、ベテランになればなるほど給金が上がるように、今日本で初めてそういうことをやり始めております。ですから介護の方は人が足りない。それで、一方で職につけない人がたくさんいらっしゃると。このミスマッチをなくすために、介護を励ます

と同時にそれは人をお金で誘うだけではなくて、介護しやすいように器具を改良すると。これは医療器具とか介護器具というのがありますね。医療器具の生産高が実は日本一なのが静岡県なんです。聞いてみてびっくりですよ。2位が栃木県です。値段的にいいますと年間この3年で三千数百億円から4,000億円つくっているんですよ。

まだこれ輸入しています、6,000億円ぐらい。車なんていうのは、よほどぜいたくな人が外車に乗るぐらいで、通常日本の輸出ですよ。もともと輸入車だったでしょう。それを国産車にかえていって、ついに世界標準になって、そして輸出にもなりました。この介護器具とか医療器具というのは、今外国から入ってきているんです。そしてそれを駆逐するといいますか、国産品によって変えていくというその可能性が一番高いのが静岡県です。ですからこの健康産業を励ましたい。

じゃ健康産業はどこにあるかという東部に多いんですよ。先ほどの車椅子は西部で、たまたま車をやっている方たちがそういう今の車の生産から自立しようということで車椅子にかえられまして、それでHAMINGという協同組合をつくって、橋本エンジニアリングというところが中心になられて、今試作品が出て賞もっております。これから出てくると思いますが、そういうふうにして介護をしやすいような環境をつくっていくと。

そしていずれ必ず老人になって、足腰が不自由になってくると、こういう方々のお世話になるわけですから、自分のこととして考えて介護の方たちの待遇をよくしていくと。一方で、介護しやすいようなそういう技術的な改善をどんどん図って行って、これを国産品として最高のものをつくり、かつ輸出までするというのを通して、新しい健康産業のメッカにしていくと。

そして健康な人は、富士山に行ったり、箱根からこの伊豆半島に下りてくるというふうにして、この一帯が常に健康を維持できるような形で、最終的には健康寿命というものを延ばして行って、なるべくこういう方のお世話にならないように、運動をやっていくということをしていきたいということでございます。とりあえずは奈良本のけやき公園に行くということが一番の近道ではないかと思いました。何か東伊豆町長さんの御実家がそこにあるそうですから、ついでに見学してください。(笑)

<発言者6>

奈良本のけやき公園を言っていたら、知事、ありがとうございます。トラベルヘルパーと奈良本のけやき公園というこの地名を広報するのに非常に苦労いたしておまして、町民からも「どこそれ」と言われるんですよ。迷ってしまう。国道に県の方でかけていた

だいたけやき公園という矢印が湯ノ沢というところにあるんですけども、そこから入ってJAのところいらしてもあるんですけども、町長の家近くのところにもあるんですけども、そのあたりから迷われて、違う山に入っていったりとかということになるので、連絡をくだされば道案内からいたします。

そして先ほどちょっと足りなかったのが、介護保険の方、国のお金とか、皆さんの介護保険料で賄っているものですが、家の中のことで、私どもがかかわっていることは、安くという意味ではなくて、安くはそんなにできないと思うんですね。ただ青空の下での安心安全に動いていただくための支援ということです。

そしてバリアフリーするとしたら大変な設備投資というか、そういうのがかかりますよね。そのところにちょっとしたと言ったら語弊がありますが、専門家が介護を見ていると、お風呂に入るときにしても大層な改装ではなくて、ちょっとした板1枚でも可能になること。介護の必要な方だけが入れるお風呂を例えばつくってしまったら、一般の方には味気なかったりするわけで、この伊豆というのは温泉で売っていますし、観光で売っていますし、そうするとここに持っているイメージというのはゆっくりお風呂に入りたいところなんですね。観光の方たちがいろいろ頑張ってくださいていますけれども、自由に動けるだけではなく、あるいは不自由な方だけがそういう方たちだけで来るというのでは、またそれも味気ないので、御家族と一緒にとか、そういった部分に御家族の邪魔にならないように寄り添えるのがトラベルヘルパーだと思ってやらせていただいております。

旅はリハビリという一遍うちのヘルパーに会うと絶対リピーターに、絶対というのも何ですが、本当に8割、9割、「次はね」とおっしゃって別れられるんですね。ですのでそこであきらめなくてもいいのかなと今思い始めている時期ですので、どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。

<発言者4>

司会者の方から時間は5分だよというように言われたおかげで、実は3つ考えてきたんです。そのうち1つをはしょって、ちょっと継ぎ足して言ったこともありますけれども、まず稲取漁港の改修の整備工事に当たり、県には長期にわたり多大な支援をいただきましたありがとうございます。使い勝手のいい立派な船揚げ場も完成しまして、組合員一同大変喜んでおることを報告させていただきます。

それと稲取漁港整備に関する会の活動なんですけれども、最初みんなで集まったときは

稲取港を起点に何かやってみたらどうだといろんな意見が出ました。ひどい話だと、港を競艇場にしたらどうかとか、そんないろんな意見を出し合った中で、1つまとまったのが、漁港を核とした何か人の集まる観光施設を兼ねた物をつくったらどうかという話でした。

話が煮詰まっていく中で、県知事さん、きょうごらんになったかどうかわかりませんが、一番外側の防災岸壁から漁協の近くまで、幅の広い道路ができて、その内側に道路工事に伴ってきれいな船揚げ場をつくっていただきました。それから役場に向かって歩いてきますと、もういつ崩れてもおかしくないというような漁港の建物があります。

それが漁協の建物をどうにかしようという話は何回も出るんですけども、漁協には財源もありませんと、その話が出るたびに私は下を見ているわけなんですけれども、今回、産業団体というそういう会の中の若手の後継者の仲間のグループが、この推進部会とか推進協議会のメンバーなんですけれども、とにかく漁協のところから町の活性化を始めなきゃいけないんだと。稲取に観光客が来ても、雨が降ったら行くところもないだろうということの中で、そういう話が盛り上がってきました。

私にとって、これは夢だな、こんなこと言ったって夢で終わるなと思いつつも、もし実現したらすごいものだろうと考えております。今回、いろいろ津波の想定の高さが出まして、東海岸はやっと発表されたというところですか、それでこの港の近くに津波の避難タワーをつくるんだしたら、そういう建物をつくった屋上に避難できるようにしたらいいのかなというような虫のいい話を考えております。以上です。

#### <傍聴者1>

今まで、ちょっと質問になりますけれども、この世に子供が生を受けまして、幼児、児童、生徒、学生になる段階まで22年間というもの、教育を受けなければならない皆さんでありますけれども、その教育というのが一番今話題になっていて、またそれが一番大事なことだと思いつつも、子供たちも教育を受けて、うまく言えませんが、学んで、そして大人になっていく段階までは、教育の課程を大事に教育していただきたいということで、教育に携わっている人たちも、一生懸命土日も学校の方に出られて教育しているということをわかっていただきたいと思いつつも。以上です。

#### <傍聴者2>

知事には本日の午前中、細野高原のススキを見ていただいて、残念ながら雨の中だった

んですが、それでも雨の中でも非常に美しいというふうに言っていただきまして、私ども本当に誇りにしている景観ですから、うれしく思います。ただ、残念ながらその上に風力発電が21基立つということが現実のものになりまして、来年の今ごろいらっしゃるときには恐らく山の上に21基の風力発電が立っているということになっているのではないかと思います。

これは県知事も熟慮いただいて、保安林解除の件なんかでお願いしたときには、有識者会議などを立ち上げていただいて、十分に審査していただいたという経過がございまして、結果的には1年ほどおくらせていただいた。これに関してはある意味感謝しております。にもかかわらず、私どもの努力が足りなかったのか、力が足りなかったのか、残念ながら来年の今ごろにはきょう見た細野高原の上に21基の風車が立ってしまう。これに関しては本当に残念に思っております。

景観が壊れて観光的にダメージがあるのではないかと同時に、土砂災害とか、多くの懸念があります。例えばさっきワサビの件を言っておりましたけれども、ワサビの畑に影響はないのかということとか、人的被害とか、土砂災害等の懸念に関して、もしそういった懸念がありました場合には、県の方にはぜひまた親身にこういったことに関して御理解いただいて、その解決に努力をともにしていただきたいと思いますというふうに思いますので、またよろしく願いいたします。

### <傍聴者3>

こんにちは。県知事には人づくり推進員で何度かお会いしております。そのときに前にもお話ししたんですが、東伊豆町には後ろにあるつるし飾りとか、築城石が誇れるもの、もちろんキンメとかいろいろあるんですが、そういう誇れる文化もございまして。それを地元の主婦たちが掘り起こしまして、脚本からつくって、人形劇にいたしました。

築城石はちょっと大きなお子さんに見ていただきたいと思って、前もお話しして、小学、中学ではちょっと難しいので、高校でやりたいなということを地元のサークルの方は言っています。ただ県立高校になりますので、なかなか私どもでしたいということでの実現が今まで余りしていません。

それで稲取高校でやらせていただいたときには、やはり地元のそういう歴史的なお話を踏まえて、アマチュアですが感動していただきましたので、そういう県立高校で東伊豆町、そして伊豆にはこんな築城石の話があるんだよというのをわかっていただくようなことを

させていただけたらなど、地元のアマチュアのグループでいつも言っているんですが、それを何か御尽力いただけたらなと思っています。

#### <傍聴者4>

今、原発の問題とかいろいろ出ておりますけれども、私息子が2人いるんですけども、まだ小学生の息子が2人いて、国の基準ですと、私が小さいころ食べていた食べ物とか、例えば0.8ベクレルとか、それぐらいのものが、今基準的に100ベクレル以下とか、すごい大きな基準になっているんですね。なので、はっきり言って例えば流通されているものも、風評被害とかいろいろと言われてはいますけれども、例えばスーパーで買っている食べ物とか、そういうものも何かわからない、信じられないというか、これを本当に食べて大丈夫なのかなという思いで、常に私はごはんをつくっています。

なので、国の基準ですとか、いろいろな、はっきり言って政府が言っていることとか、今信用がすごく落ちてきている中、どうぞ、川勝知事がこの県民を、国というふうに言うと大きくなってあれかもしれないですけども、この静岡の県民を独自に守っていただくような姿勢をお願いしたいと思って、結局これからの子供たちがこれからの世の中を担っていくので、すごいお願いしたいこととかたくさんあるんですけど、まずはそういう、先ほどこからおっしゃられているように食の問題とか、そういう例えば何かこれから先にも原発なり、今4号機もすごい大変な状態ですけども、そういうところが何か起きた場合に、いち早く、パニックとかではなくて、本当のことをお知らせしていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

#### <県知事>

まず発言者4さん、3つ目、ちゃんと時間があってよかったと思います。今津波が来るとどうしようかということで、まずは避難タワーだということで、3.11以前は7基しかなかったんですよ、避難タワーというのは。それが今35基あります。この35基、これは皆県外から買っているんですよ。1基、大体3,000万から4,000万ぐらいするんですね。これが皆さんこの近くにありますか。「南伊豆の方に」そうですか。

これ登って見たことありますか？私、御前崎で登って見たんですが、あれは登りにくいですよ。そして網々でしょう。だから運動靴ならいいですけど、ハイヒールは全くだめですよ。そして平時に何に使うかと。使いようがないですね。ユニバーサルデザインでゆっ

くり上がれるようになっているんですね。だけどもあわてるからそういう形にするかなと。ゆっくりだとファッションショーでもできるかなと、上からおりてくる形で。それもやっぱり難しいですよ。そして50年たつと使い物にならなくなるんです。だから、発言者4さんが言われるように、何か平時にも使えて、かつ有事に備えられるという考え方がいいと思うんですよ。よろしくお願いします。

漁協の建物ということで、非常にわかりやすいですよ。ちなみに下田の方はもうすれすれでしょう。場合によっては相当高い津波が来かねないということで、敷根公園のところに持っていかうとなつたんですが、今、市長さんは駅舎がありますね、下田駅。あそこを高くするとおっしゃっています。そうしたら皆そこで降りて、あちこち行くわけでしょう。一番だれもが知っているから、距離感覚もわかっているし、上に登れば展望もきくし、そこに市役所があるわけですから、すごく安心だからというそういうことを議論しようとしているんですよ。

それから吉田町というところ、あそこも何もありません。ですから歩道橋を非常に広くして、避難タワーのかわりにつくられた。そうすると、そこで広いので、このぐらいの幅がありますよ、優に。イベントができるんですよ、上で。そして自動車がとまったとすれば、降りて登れるでしょう。それを複数つくられますね。そのうちの1つを見に行きましたけれども、びっくりしましたね。

それから、こういうところと違ってあそこは平面ですから、吉田公園に行かれたことありますか。そこに丘をつくるというんですよ。そうすると子供がその上に登りますでしょう、命山みたいなものです。だからそこを登るようにすると、眺めもいと。しかしいざというときにはそれに登れるということで、有事と平時と両方使えるんですね。それぞれの土地に合ったものを考えるということが大事だと思います。やっぱり平時のときと有事のときと両方使えるように考えると。その1つの案だと思うんですよ。

ただ、お金がかかるので、順番もありますので、やはりそのあたりのところは、稲取は漁港ということですから、このメリットを生かしながら有事のときにも備える、平時のときにも使えるようにするという考え方が大事だという考え方はそのとおりだと思います。

それから教育は、もう本当に一番大切なんですよ。それで、きのうは南伊豆の分校に行ってきたんですね。そこで高校3年生の男の子が、耕作放棄地が周りにいっぱいあるからというので、何とかこれ使えないかということで、じゃヤーコンを植えようということになりまして、このヤーコンを植えたわけですね。育つたんですよ。

そして、いいのが育ったというので、形のいいものは全部農協の方に出荷して、傷物があるでしょう。その傷物をどうするか、粉末にしようということに決めて、そういうことについて能力のある人を、西伊豆町だとか、役場とか回って、そうするといろいろ助言を得て、今度は三島か何かに行って製粉場ですね、そこでまたしかるべくお話を聞いて、今度はうちの農業試験場に行って、これ1日じゃないですよ。最後これ製粉にするには、浜松に KuRuMiX という障害者の方を使いながら、傷物のトマトであるとかミカンをジュースにする工場がありまして、そこに行って技術を学んで、そして最後はうどんをつくっちゃったんです。

それで私その話を聞いていて、うどんを食ったんですよ、きのう。ヤーコンのうどん。うまいんです。「どうだ」というような顔をして、本当においしかったので、「おいしい」と言ったんですが、それは学校の先生だけが先生じゃないということの意味しているんですね。南伊豆町の役場に行かれて、そのお話を聞き、また西伊豆町に行き、三島に行き、うちの試験場に行き、浜松に行き、最後は製品としてつくったものを商工会議所のところに持って行って、「これ売れますか」と。これ道の駅で売れるんじゃないかということになったんですね。

ですから、だれもが実は気がつかないで先生になったと。皆それぞれ働いているわけですね。その働いていること自体が社会をつくり上げていって、それは学ばれるに値すると。ただ何となく教えるというふうに思っていないんですが、しかしいざ子供たちから見ると幾らでも新鮮なことがあると。学校だけが教場といいますか教室じゃないと。地域全体がテキストだと。

これが今のジオパークもそうですね。ここを通して、ジオパークをすることを通して、伊豆半島の形成の仕方を知るということは、これは伊豆半島はフィリピン海プレートの上に乗っているわけですから、フィリピン海プレートはフィリピン海プレート以外のものがあるということの意味していますから、ユーラシアプレート、あるいは太平洋プレート、北米プレート、これとここら辺で合っているらしいとか、そうすると一気に視野がものすごく広がりますよ。それから火山となると、太平洋の火山帯の一角を持っているということになるから、地球的規模になります。

そういうことで、地元に大地に根差した学問をしていきますと、いろんな観光業者とも関わってくる、食材とも関わってくるということでございまして、全員が先生になるというそういうに変えないと、もう学校の先生だけに御負担をかけている時代ではないという

ふうに私は思って、子供は社会総がかりで育てるという観点でやっていく必要があると。ですから、子供に背中を見られても恥ずかしくないというそういうふうにしていかないと、先生の不祥事も絶えないし、自分たちそれ自体が子供と一緒に育てていくという考え方を持った方がいいというふうに思いましたね。

風力発電の話が出まして、これは今東電がつくれる状況じゃないんじゃないですかね。ともかく人に迷惑がかからないようにやらないといかんので、私は今風力発電も全く低周波が出ないようなものを発明している人がいるというので、そういうところにも関心を持ってやっているんですが、自然のエネルギーを活用するということは大事です。一方で景観ということは本当に大切です。小さな看板から大きなこういう借景となるような景観も含めて、これはとても大事なので、両方をどう両立させるかという問題が出てくると思います。

そして築城石というのが出ましたけれども、これもそうですよね。これは江戸城をつくれるためのあの石でしょう、伊豆石。これは江戸城をつくる石だったと。江戸城というのはどういうふうにそれまでの、例えば京都の室町幕府だとか、あるいは奈良と違うのか。奈良とか京都というのは皆中国の真似なんですよ。江戸城が真似したものはありますか。京都の都の真似は長安だと、奈良も平城京だとかいうのは向こうの真似していますよ。

真似してないんですよ。つまり初めて中国から日本が文化的に自立をした、そういうお城の石だということになりますと、江戸時代というのは、城下町というのは日本独自のものですよ。一国一城を家康さんが命ぜられましたから、北は津軽藩から南は薩摩藩に至るまで、300 諸侯みんな城をつくったわけですね。その形というのは、どこにも外国にモデルがないんです。そういう一番の基礎になったお城の礎石になったのが伊豆石だというふうにしてだんだん広げていくと、この地元に足をしっかりと置きながら歴史を学んでいくと。

つまり歴史の教科書に書いてあることを覚えるんじゃなくて、ここから発想していくと。ジオパークも地学や理科の勉強をここから見ていくと。カーネーション、あるいはマーガレットロードのマーガレットだとか、あるいはカワヅザクラというのもそうですが、ここのお花や等々から学んでいって、それをだんだん広げていくというようにやっていくと、それぞれ皆何らかの生業とかかかわっていますから、そして生きた知識になると。そういうふうに組み替えて力を伸ばしていくというやり方があるというふうにも思った次第でございます。

それから原発の件は、これは今おっしゃったように、正確に情報を知る必要があります

ね。私は一切隠さない。例えばSPEED I（緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム）という放射能がどのように拡散するかということは、風の向きでわかるわけですよ。毎月これ出しているわけです。そういう風向きで放射能も、仮に浜岡原発に事故が起こったときには放射能が飛散するというのはわかっているわけです。それを3.11の後、あれは秋だったですかね、1年間のあれが出たので、これを見たら、伊豆半島の方向に来るというんです。

それはもう伊豆半島の方は驚くから出さない方がいいと言う。何言っているんですか、すぐ出しなさいと。だからその情報は全部出しなさい。何で君隠すんだと。いや、彼らが怖がるからと。君だけが知っているんじゃないか。いずれもしもわかったらどうするんだ。パニックになるのかどうかというよりも、そうなるということを知った上でいるということと、初めて聞かされた、そして県もその情報を持っていたと。そうするとえらい違いだと。

だから、ある情報は全部知らせると私は考えでやっておりまして、知事室のドアがオープンになっているのも同じです。つまり何かおもしろくない話を何かこそこそ、こそこそと知事に言いたいと言ったら私は大きな声で繰り返すんです。（笑）そうすると、その周りの部屋の人に聞こえるでしょう。そうすると言えないじゃないですか。だから知事室というのは、皆様のお役に立つための仕事をしているわけですから、そういうことしかやらないということなんです。

ですから同じように、知事に上げてくる情報はだれが持っても同じだということで、だれが聞いても構わない。県民の方だれが聞いても構わないという姿勢でやっておりますから、原子力発電についても、差し当たって原発に依存している依存度が9つの電力会社のうち一番低いんですね、10%でしょう。例えば今問題になっている関西電力、大飯原発だとかいっているところですね、あれは5割ですから。ですからこれが止まったら病院の、あるいは冷蔵庫の電気が止まって、手術やえらいことになるということで、あるいは九州も5割です、四国も5割です。違うんですよ、うちは。

今太陽光発電、この平成32年で30万キロワットまで持っていこうということだったんです。ついこの間まで7万キロワットぐらいしかなかった。もう既に30万キロワット達成しました。平成32年に90万キロワットまで持っていくとおっしゃっていたんです。私はそれでは遅過ぎるということで、平成29年、3年前倒しで100万キロワットまで太陽光発電を広げるという目標を立てています。100万キロワットというのは原発1基分です。そこ

まで持っていくというふうにやっているんですよ、今。ですからそうすると、動かさなくても済むでしょうという話にもなりますよね。

そして浜岡原子力発電所は今防波壁を22メートルのものを来年ぐらいにかけてつくります。それからまた非常用電気も装備し、止まっても冷却ができなくなりますと、どんどん、どんどん蒸発するでしょう、水が。崩壊熱を出していますから。そうすると燃料棒が露出するんです。露出してもものすごい圧力が上がります。温度は100度、200度、300度、400度、500度、600度、どんどん上がっていくんですよ。そして900度ぐらいになると燃料棒の被覆帯というか、覆っているものが溶け始めるわけです。溶けるといっても、変質し始めるんです。周りは $H_2O$ 、水でしょう。 $H_2O$ のOという酸素がジルコニウムという被覆帯と反応しまして酸化していくんです。そうすると $H_2O$ が別になって、つまり水素、Hというのは水素ですから、水素が分離するととっても危険でしょう。だから止まっているから廃炉にする、永久停止にする、はい、安全というふうにはいかないんですね。

ですからどういうふうにしたらそこが安全になるかということをお皆さんにオープンにした形で防災原子力学術会議というのを開いていまして、国の規制委員会に入ってこられている先生に勝るとも劣らない方々を入れて、中部電力の担当者を入れて、残念ながらすべての人に聞いていただくわけにはいきませんが、全部オープンにして、マスコミにも、来たい人はいつでも来て聞ける。それはもう二十数回開いていますから、ですから一番安全なことをしているのが浜岡原子力発電所です。すべてのことについて中部電力はそこにはいますので、みんなにオープンで聞くということです。

そして専門家に任せろという意見があるでしょう。だけど専門家というのは、あることについての専門家なんです。放射能についての専門家は、電気についての専門家ではありません。あるいは地震の揺れについての専門家は、压力容器についての専門家ではないんですね。ですからあることについては皆素人なんです。だけど、その人たちが私たちにわかるように説明しなくちゃいけない。我々は住民についてのことについてそれなりに知っていますよ。皆さん方はこの地域についてよく知っているということでしょう。ですからある意味でそれぞれは自分の知識、経験に基づいた知識を持っています。そういうことで言えば皆同じだということで、専門家に任すというふうには言わない。

専門家の方は、その専門についてわかりやすいように話をしてくれと。ほかの専門家の人たちは、その専門については素人だという考えを持っていますから、ですから我々が原子力について、特に浜岡原子力発電所についての知識をしっかり持っているということが

大事で、最終的に仮に動かすというようなことを政府の命令でなされたときには、どうしますかということを知りたい。わからないでは困る。いずれわからない、どちらにしても、だけど自分の今わかっている範囲で責任を持って決断をしなくちゃいけない時が必ず来ます。そういうふうにしてやっていますから、すべてオープンにするという態度です。以上です。